

令和7年度 信州豊かな環境づくり県民会議表彰者一覧(8団体・1個人)

(敬称略・順不同)

受賞者	具体的な取組内容	活動期間	活動地域
長野県建設業協会 飯山支部	<p>■北信地域を訪れる観光客を気持ちよく迎えるために、例年観光シーズンである春と秋の2回、野沢温泉等の観光地へのアクセス道路となる国道117号、国道292号の約21.4キロメートルを、参加者約80名が6つのコースに分かれてゴミを拾う環境美化活動を行っている。</p> <p>この活動は、長野県北信建設事務所、飯建除雪協議会との協働で実施しており、令和6年度(1年間)は春、秋それぞれの活動で100kg以上のゴミを集積した。</p>	平成27年～ (10年間)	飯山市
高木建設 株式会社	<p>■長野県人権擁護委員協議会との縁で「人権と平和の花カンナ」を植栽する活動があることを知り、元々取り組んでいた人権教育や障がい者雇用促進に併せて地域住民を元気づけたいとの思いから、カンナの植栽を始める。当初は社員で行っていたが、地元企業や小学校、保育園にも当該活動が広がっている。</p> <p>また、長野市内の通信制高校も参加して植栽活動を行い、併せて簡易な就労体験を実施しているほか、地元企業や小学校・保育園から球根を分けてほしいとの要望があり、球根の提供と植栽作業を児童とともにしている。</p>	令和2年～ (5年間)	長野市
ユーグループ	<p>■森林の里事業<うっぴいの森(もり)></p> <p>2012年4月より、ユーグループを里親として、飯綱町(里子)、長野県(立会者)と協働の上、飯綱町桂山周辺の森林整備を行っている。</p> <p>活動内容は、毎年春先に新しく区画を設け、「ヤマモミジ」150本の植樹を行い、年間(冬季期間を除く)を通して下草狩りや周辺整備を行い、生物多様性の維持に繋げることを目的に活動を行っている。</p> <p>また、整備を行っている区画は、2023年に日本初のINWA公認「ワールドカップノルディックウォーキングハーフマラソン長野2023」のコースの一部として使用され、イベント参加者や通行者が気持ちよく自然の中を通れるような環境整備を行っている。</p> <p>その他にも、1976年から現在まで県への「緑の苗木」寄贈等、環境問題や地域課題にも積極的に取り組んでいる。</p>	平成24年～ (12年間)	長野市
ミネベアミツミ 株式会社 軽井沢工場	<p>■軽井沢工場敷地内及び工場周辺での清掃活動や緑化活動を行っている。緑化活動については、毎年6月に30～40名で工場周辺のゴミ拾い等の清掃活動の実施、工場の近くにある病院前の交差点に整備されている花壇の植栽への寄付活動、工場出入口前の花壇への花の植栽・管理に取り組んでいるほか、令和5年10月からは、御代田町の町花である『やまゆり』の栽培を開始している。</p> <p>工場敷地内は、植樹や人工池が整備されており、工場立地法が定める緑地面積の割合は、敷地の27%となっている。</p>	平成9年～ (28年間)	御代田町

受賞者	具体的な取組内容	活動期間	活動地域
<p>原村立原小学校 4年1組</p>	<p>■原小学校では、委員会活動として全校で花壇づくりを行っている。4年1組(R6当時)は、入学時より花壇づくりに関わっており、総合学習の時間を活用して「学校内だけでなく原村をきれいにしよう」とゴミ拾いを行い、拾ったゴミ 17kg の分別について学習したところ、汚れによりほとんどがリサイクルできないことを学習した。</p> <p>これをきっかけに、ポイ捨ては美しさを損なうだけでなく、可燃ごみが増えることで二酸化炭素排出量も増え、地球温暖化を進めてしまうと考えたことから、校内だけでなく村内全域に向けてポイ捨てをやめるよう啓発活動を行うこととした。</p> <p>班ごとに1年かけてポスター、チラシ、新聞、動画や看板を作成したほか、「ポイ捨て抑止になれば」と手作りのごみ箱を設置した。また、手作りのリヤカーを活用し、選挙カーのように村内での啓発活動も実施している。</p>	<p>令和2年～ (5年間)</p>	<p>原村</p>
<p>諏訪湖白鳥の会</p>	<p>■昭和 49 年 11 月にコハクチョウ2羽が飛来して諏訪湖に定着したことを契機として、白鳥などの水鳥が休息できるように草刈りやゴミ拾いなどの美化活動に取り組んでいる。</p> <p>毎年横河川河口周辺のアレチウリ駆除や草刈り、ゴミ拾いなどを岡谷市、長野県と合同で行っているほか、諏訪建設事務所に協力を依頼し、横河川河口両側沖の人工島と護岸の間を開削して、白鳥などが休息できる場所の整備を行うなど、半世紀に渡って活動を続けている。</p> <p>これらの活動により、主な活動場所である横河川河口周辺は諏訪湖周の中でもとりわけ景観が良い白鳥の飛来地として広く知られるようになり、毎年白鳥が飛来する頃には、地元の方はもちろんのこと、県内外から多くの観光客が訪れている。</p>	<p>昭和 49 年～ (50 年間)</p>	<p>下諏訪町</p>
<p>花咲く村づくりの会</p>	<p>■毎年村内各自治会及び関係機関と協力し、春と秋の年2回、合わせて1万株を超える花苗を村内へ定植し、県道、村道沿線等の花壇の維持管理に努めている。土づくりから仮植、花苗配布までを幹事や村民のボランティア作業で行い、春はマリーゴールドやサルビア等の4種類、秋は5色のパンジーを育て、色彩豊かな花が村内の各花壇に咲き誇っている。</p> <p>また、藪原宿街並みの玄関先を花でいっぱいにする「街道にぎわい玄関花飾り事業」や、小学校における児童への花の生育指導、道路の草刈りなどの多様な環境美化活動を通して、地域の人々が利用する道路の保全活動にも貢献している。</p>	<p>平成5年～ (31 年間)</p>	<p>木祖村</p>

受賞者	具体的な取組内容	活動期間	活動地域
<p>桃介橋河川公園組合</p>	<p>■「電力王」と呼ばれた福澤桃介が、大正 11 年に読書発電所建設のため木曾川に掛けた吊り橋「桃介橋」の下にある河川公園の美化活動に取り組んでいる。植栽美化活動は年1、2回実施しているが、常時管理者を置いて3月～11月は河川公園、天白公園の美化活動を行う。この活動を長年にわたり継続していることで、今では桜、花桃、ミツバツツジが同時に咲く、南木曾町の「春の名所」として多くの人々が楽しむ場となっている。</p> <p>また、「桃介記念館」と「山の歴史館」の博物館指定管理を南木曾町から受け、来訪者への有料案内業務を行っているほか、使用頻度の少なかった高校同窓会館を「桃介亭」に改修し、手打ち蕎麦の提供、ホットカフェ事業への協力など、観光事業や社会福祉事業にも参画している。</p>	<p>平成 10 年～ (26 年間)</p>	<p>南木曾町</p>
<p>尾日向 梨沙</p>	<p>■編集者・ライターとして、スキーに関わる雪国でのスノースポーツの情報発信にとどまらず、雪国暮らしの豊かさ・魅力を伝え、自然環境のすばらしさ、楽しみ方も発信している。度重なる自然災害、雪不足などの異常気象を踏まえて、自らのライフスタイルを見つめなおし、2020 年に移住。「地球への負荷を少しでも配慮して人間らしい暮らし」を求め、電力自給となるオフグリッド生活を飯山市で実現している。</p> <p>垂直積雪量4mに及ぶ地域では難しいと思われていた太陽光発電について、太陽光生活研究所や地域工務店の協力を得て実現した。</p> <p>この取り組みを契機として、長野県の県民参加型予算「雪国での再エネ実装」が実現され、「雪国太陽光」という豪雪地帯での再生可能エネルギーの利用可能性の拡大に大きく貢献した。</p>	<p>平成 30 年～ (6年間)</p>	<p>飯山市</p>